IDFIインパクトファイナンス人材育成研修【基礎編】

Who 誰がインパクトファイナンスを支えているのか

1.3 インパクトエコシステムを構成する主要なアクター



インパクト志向金融宣言
Japan Impact-driven Financing Initiative

基礎編の構成

基礎編は1.1～1.10の構成となっています。本日は、1.3についてご説明します

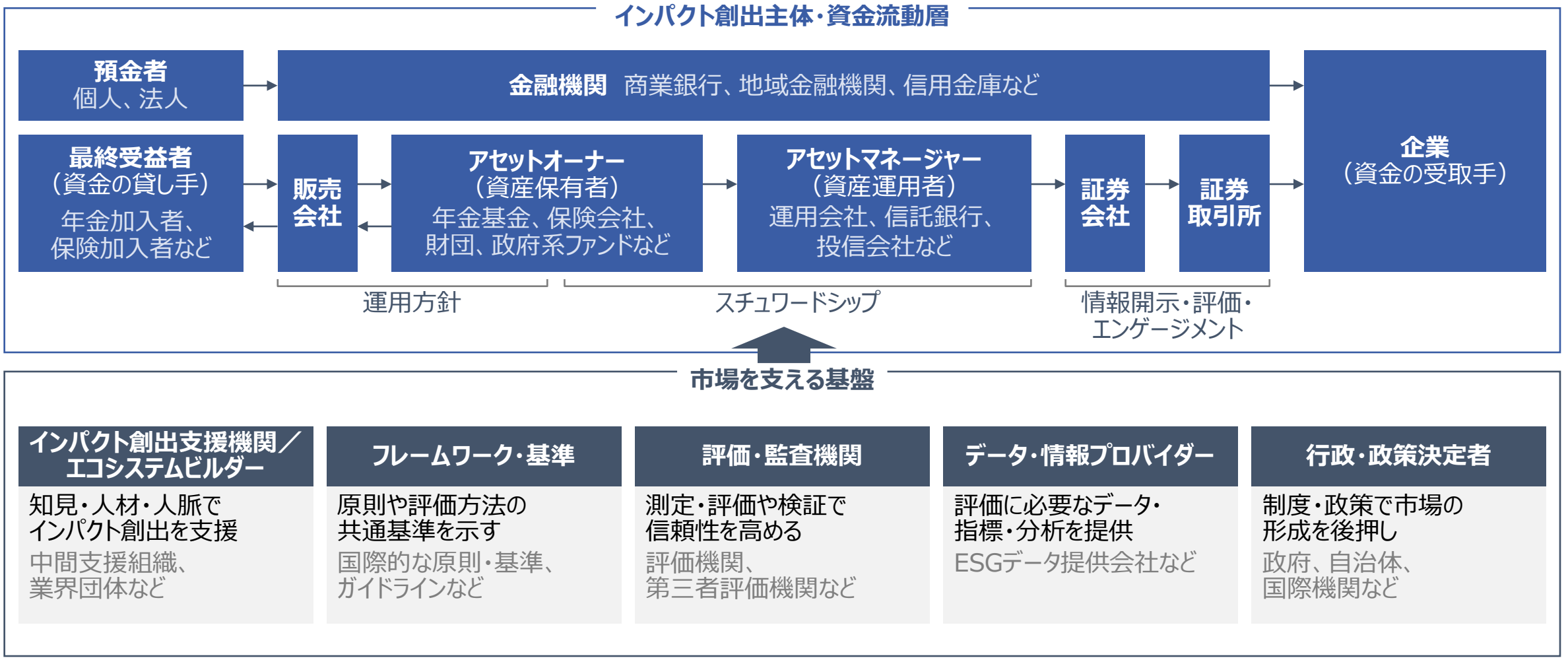
大項目		項目	
What	インパクトファイナンスとは	1.1	インパクトファイナンスの基本概念
Why	なぜインパクトファイナンスに挑戦するのか	1.2	取り組みが拡大する背景と意義
Who	誰がインパクトファイナンスを支えているのか	1.3	**インパクトエコシステムを構成する主要なアクター**
How	どのようにインパクトファイナンスを実施するべきか	1.4	主要な原則・ガイドライン
		1.5	IMM①全体像
		1.6	IMM②戦略策定
		1.7	IMM③KPI設定・測定
		1.8	IMM④測定・把握／エンゲージメント
		1.9	IMM⑤進捗開示
Upcoming	今後の展望	1.10	インパクトファイナンスの発展テーマ

本研修回の目的

インパクトエコシステムを構成する主要なアクターを理解する

インパクトファイナンスを支えるエコシステムの全体像

インパクトファイナンスは、資金が流れるインパクト創出主体の層を、市場を支える基盤が支えています



出典：インパクト志向金融宣言 概要説明資料を基にGLIN作成

かんぽ生命保険のインパクト投資方針

かんぽ生命保険*1は、幅広い資産を長期的に運用するユニバーサルオーナーとして、「Well-being向上」「地域と社会の発展」「環境保護への貢献」を重点テーマとし、独自の認証制度「インパクト“K”プロジェクト」で案件を厳選するインパクト投資を行っています

機関概要

運用資産残高	59.5兆円（2025年3月末，連結）
インパクト投資残高*2	1,584億円
機関区分	生命保険会社（アセットオーナー）
３つの重点テーマ	**Well-being向上** **地域と社会の発展** **環境保護への貢献**

インパクト投資方針

領域選定方法	社会課題の重要性・喫緊性と、課題解決への貢献度
重視するプロセス	**インパクト創出プロセス：**KPI設定、IMM（測定・管理） **投資先の意図確認：**社会課題の認識、ToC、ロジックモデル **副次的効果確認：**想定外のネガティブなインパクトも含む
妥当性・透明性の担保	インパクト・ウォッシュの懸念を踏まえ、**国内外の指針を包含した独自の認証要件・スキーム**（「インパクト“K”プロジェクト」）を整備。運用会社との対話を重ね総合的に判断
インパクト“K”プロジェクト認証要件（5項目）	• **経営理念・3つの重点テーマ**との整合性 • **経済的リターン**と並行した**社会的リターン**の創出 • インパクト創出の**明確な意図**（Intentionality） • 未充足ニーズの解決（**追加性・貢献**） • **定量的なKPI設定**と**定期的なモニタリング**

*1：日本郵政グループの生命保険会社　*2：インパクト志向金融宣言の署名機関として報告したインパクトファイナンス残高
出典：かんぽ生命保険「責任投資レポート2025」

三菱UFJ信託銀行のインパクト投資方針

三菱UFJ信託銀行は、サステナブル投資の起点として「重大なESG課題」を特定し、運用戦略とスチュワードシップ活動に反映してリスク低減と期待リターンの改善を図っています

機関概要

運用資産残高	85兆円（2025年度実績,グループ全体）
インパクト投資残高*1	121億円 インパクト志向金融宣言への報告値
機関区分	信託銀行（アセットマネージャー）
サステナビリティ優先課題	**持続可能な社会** **活力溢れる社会** **強靭な社会**

インパクト投資方針

インパクトゴール	**「安心・豊かな社会」の実現** サステナビリティ活動方針に掲げる社会像
インパクトテーマ	**自然環境との調和と共生** **健康と安全の確保** **あらゆる人々が活躍する社会**
インパクト投資ファンド概要	• **2021年10月** 国内上場株式インパクト投資ファンドの運用開始 • **2025年5月** システムチェンジ志向のファンドをかんぽ生命から受託
インパクト投資ファンドの特徴	• **「重大なESG課題」**を基にテーマを設定 • **インテンション共有**を重視した対話 • **GSGのIMM指針**に沿ったIMMプロセス

*1：インパクト志向金融宣言の署名機関として報告したインパクトファイナンス残高
出典：三菱UFJ信託銀行「IMPACT BOOK 2026」、同「IMPACT BOOK 2025」、MUFGアセットマネジメント「インパクト投資レポート2025」

三井住友信託銀行のインパクトファイナンスの主な取り組み

三井住友信託銀行は、企業単位のインパクト評価を軸に、融資の対象を自然資本へ広げるとともに、評価を他の金融機関・企業・自治体にも提供しています

機関概要

総資産	79.2兆円（2026年3月末、単体）
機関区分*1	専業信託銀行（金融機関）
提供するサステナブルソリューション	• ステークホルダーとの接点を活かし、**企業価値向上につながる総合支援**を提供 • インフラ・不動産・船舶・航空機等の**リアルアセット領域**で資金と機能を提供 • 2020年4月設置の**専担組織**が事業横断でお客さまを総合支援

インパクトファイナンスの主な取り組み

企業への融資	**2019年3月** 不二製油グループ本社に第1号のPIF *2を実施し、累計**66件**を実行
インパクト分析・評価の提供	**投資家：**アンカー・シップ社の船舶 **VC：**リアルテック社のVC投資先 **自治体：**小田原市の再エネ地産地消事業 **企業：**アミタHD「MEGURU STATION®」
エクイティ投資	**2022年4月** 自己資金での投資を本格開始 2030年度までに累計**5,000億円**をめざす
地域金融機関との協働	**2022年11月** 他行も活用可能な評価フレームワークが環境省モデル事例に選定 **2022年12月** 群馬銀行がPIFを実行
ネイチャーインパクトファイナンス	**2025年2月** 自然資本を対象に取扱開始 実績**2件**（2026年3月末）

*1：インパクト志向金融宣言の署名は持株会社の三井住友トラストグループ　*2： PIF＝ポジティブ・インパクトファイナンス
出典：三井住友信託銀行「PIF」・「ニュースリリース」、三井住友トラストグループ「ソリューションの提供」・「データブック」

グローバルの主要な推進・評価組織

GIIN、BlueMark／Phenix Capital Group、GSG Impact、Impact Frontiersは、指標整備・独立評価・市場情報・政策提言・実務規範の提供を通じて、インパクト投資の拡大と信頼性向上を支えています

組織名	位置づけ	役割
GIIN (Global Impact Investing Network)	インパクト投資の市場形成・基盤整備機関	IRIS+*1によるインパクト測定・管理の標準化や、調査・知見提供、投資家ネットワーク形成を通じて、インパクト投資市場の拡大と高度化の推進
BlueMark／Phenix Capital Group	インパクト投資の独立評価・検証機関／市場情報プロバイダー	インパクト戦略・IMM・インパクト報告の独立評価・検証（BlueMark）や、インパクトファンドの市場調査・投資家イベント（Phenix）を通じた、投資の信頼性向上と機関投資家の資金の接続
GSG Impact (Global Steering Group for Impact Investment)	インパクト経済の構築を推進する国際ネットワーク	2013年の英国G8議長国下での取組みを起源とし、40超のナショナルパートナー（日本はGSG Impact JAPAN）を通じた、政策提言・インパクトの透明性向上・民間資本の動員の推進
Impact Frontiers	インパクトマネジメントの規範形成・実務知見開発機関	インパクトマネジメントの共通規範の継承・発展、実務ツールやピアラーニングの提供を通じた、投資家によるインパクトの統合と実務水準の向上

*1：IRIS+：インパクト測定のための指標カタログとして進化させてきたIRISを2019年にシステム化したオンラインツール
出典：GIIN、SIMI “GIIN”、BlueMark、Impact Frontiers、Phenix Capital Group、GSG Impact

国内ネットワーク（1/2）

国内では、実務推進・市場形成・評価・事業者育成を担う組織群がエコシステムを構成しています

組織名	位置づけ	役割
IDFI (Japan Impact-driven Financing Initiative)	金融機関主導のインパクトファイナンス実務ネットワーク	署名金融機関による対話・分科会活動・知見共有を通じた、インパクト志向の投融資やIMMの実践・高度化と、金融業界全体への普及
インパクトコンソーシアム	産官学金等が参画する官民連携の対話・市場形成プラットフォーム	投資家、金融機関、企業、自治体、NPO、研究者等の対話・協働を通じた、インパクト投資の実践知共有・市場形成と、社会・環境課題解決と事業成長の好循環の促進
GSG Impact JAPAN	GSG Impactの日本におけるナショナルパートナー	調査研究、普及啓発、ネットワーキング、政策・市場への提言を通じた、日本のインパクト投資市場・エコシステムの拡大と、国際的な知見との接続

出典：IDFI、インパクトコンソーシアム、GSG Impact JAPAN

国内ネットワーク（2/2）

国内では、実務推進・市場形成・評価・事業者育成を担う組織群がエコシステムを構成しています

組織名	位置づけ	役割
公益財団法人 社会変革推進財団	インパクト投資・社会変革を支える中間支援・実践組織	社会課題解決に向けた資金・事業・評価の仕組みづくりへの支援と、調査研究、案件形成、伴走支援、エコシステム形成を通じた関連組織の活動基盤の強化
SIMI (Social Impact Management Initiative)	インパクト測定・マネジメントの普及を担うマルチセクターイニシアティブ	ガイドライン・ツールの提供、研修、知見共有を通じた、社会的インパクト・マネジメントの普及・実践の促進と、多様な主体が連携する共創基盤の形成
一般社団法人インパクトスタートアップ協会	インパクトスタートアップの成長を支えるエコシステム形成団体	ナレッジ共有、情報発信、大企業・行政との連携、政策提言等を通じた、インパクトスタートアップの成長・社会実装の支援と、エコシステムの形成
格付投資情報センター／日本格付研究所	インパクトファイナンスの第三者評価を担う格付機関	ポジティブ・インパクト金融原則や環境省「インパクトファイナンスの基本的考え方」への適合性に関する第三者意見や、グリーン／ソーシャルボンド等の外部評価を通じた、インパクトファイナンスの信頼性・透明性の向上

出典：公益財団法人 社会変革推進財団、SIMI、一般社団法人インパクトスタートアップ協会、格付投資情報センター（R&I）、日本格付研究所（JCR）

インパクトファイナンスの関連省庁

各省庁は、市場整備・事業者支援・官民連携・評価手法の整備など、それぞれの役割からインパクトファイナンス市場の形成を支えています

省庁	主な役割	主な施策
金融庁	市場ルール・実務基盤の整備	「インパクト投資に関する基本的指針」の策定／インパクトコンソーシアムの運営
経済産業省	事業者のインパクト創出・成長支援	「J-Startup Impact」による集中支援／自治体との官民連携・公共調達等を通じた事業成長支援
中小企業庁	地域・中小企業の社会課題解決支援	ローカル・ゼブラ企業の創出・育成支援／地域の支援機関・資金提供者等を含むエコシステム形成支援
内閣府	官民連携・成果連動型事業の推進	成果連動型民間委託契約方式（PFS *1）や、その一類型で民間資金を活用するSIB*2の制度設計・導入を支援
環境省	環境分野における評価・実践手法の普及	「インパクトファイナンスの基本的考え方」／「グリーンから始めるインパクト評価ガイド」の策定・普及
国土交通省	まちづくり分野への成果連動型手法の導入促進	「まちづくり分野への成果連動型民間委託契約方式（PFS）の導入にかかる手引き」の策定／研修・専門家派遣等による自治体支援

*1：Pay for Successの略。行政が民間事業者に委託する事業で、解決すべき行政課題に対応した成果指標をあらかじめ設定し、その改善状況に応じて支払額が変わる契約方式
*2：Social Impact Bondの略。社会的インパクトの達成度に応じて行政等が民間資金提供者への支払いを行う。
出典：金融庁「「インパクト投資（インパクトファイナンス）に関する基本的指針」の公表について」、インパクトコンソーシアム「インパクトの創出を成長機会に結び付ける好循環の実現に向けて」、経済産業省「官民によるインパクトスタートアップ育成支援プログラム「J-Startup Impact」を設立」、中小企業庁「地域課題解決事業推進（ローカル・ゼブラ企業）」、内閣府「成果連動型民間委託契約方式（PFS：Pay For Success）ポータルサイト」、内閣府「PFS共通的ガイドライン及び各分野手引きについて」、環境省「「インパクトファイナンスの基本的考え方」について」、官民連携まちづくりポータルサイト「手引き・通知・パンフレット」

本研修回のクイズ

以下のQRコードからクイズに挑戦してみましょう！
皆さまのご回答へのご協力をお願いいたします。



インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

